

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194700456), 法人名 (社会福祉法人 三章会), 事業所名 (グループホームえぞりす・花しょうぶ), 所在地 (河西郡芽室町東3条1丁目2番地), 自己評価作成日 (平成29年1月20日), 評価結果市町村受理日 (平成29年2月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの創作活動には力を注いでいます。作品は町民文化展にも出品し多くの人に見てもらえた事で満足感や達成感を味わって頂いている。後、ご家族が面会の際には許す限りの時間を使いお話をし、情報交換を行う様にしていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2016 022 kihon=true&JigyosyoCd=0194700456-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年2月9日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームえぞりす・花しょうぶは芽室町中心部に位置し、3階建ての建物の1階は町の介護予防施設になっており、2階3階をグループホームとして平成15年に開設している。道路を挟んだ向かいには同法人のグループホームがあり、行事等互いに協力しながら運営している。開設時にえぞりす、花しょうぶ、それぞれに作成された理念は、共に住み馴れた地域で、利用者をその人らしく、温かく支えていきたいとの思いが込められており、管理者、職員に浸透し実践に取り組んでいる。法人は芽室町内に老人保健施設や他にもグループホームを有しており、老人保健施設内に本部を置き、グループホーム運営面のバックアップや、職員教育が行われている。昨年度より、家族への満足度アンケートを実施し、家族と共に利用者を支える一助としている。事業所では利用者の残存能力を維持し、毎日、活力と喜びのある暮らしが過ごせる様にと創作活動に力を入れ、四季折々の飾りつけや町内文化祭への出展に取り組んでいる。職員間は基より、家族とも情報共有に努め、優しく温かく利用者を支えている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく生活が出来るように理念を作り、事務所に掲示し職員全員で実践につなげる様に会議で話し合い、常に取り組んでいます。	開設時に、地域の中で利用者一人ひとりを尊重する支援を中心とした理念を作成し、玄関、事務所に法人理念と共に掲示している。職員に理念が書かれた携帯カードを配布して、意識を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町へ買い物に出掛けたり、神社のお祭りの山車を見学したり、町民文化展に出品し見学に出掛けたりしています。又、近くに住む知人の方々が気軽に面会に来られるような雰囲気づくりに努めています。	町の中心部という事もあり町内会の住民は少ないが、運営推進会議や避難訓練に協力して頂いたり、家族会に参加して頂き、利用者、家族と交流している。併設の町の介護予防事業所での事業や、グループホーム主催の認知症サポーター養成講座に参加を得て理解を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流に努めておりますが機会はまだ少ないですが、事業所の力を活かして町内会の方々と認知症サポーター養成講座を行いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し入居者状況や取組等を報告し、参加されたご家族や町内会長、役場の方からの意見等を聞き、フロア会議などで職員に報告してサービス向上に繋げる様に努めています。	運営推進会議は隣接している2事業所4ユニット合同で、概ね2ヶ月毎に開催し、利用状況や研修報告、写真での行事、活動報告を行い質問、意見を得て運営に活かしている。利用者家族には毎年順番に委員をお願いしている。全家族に議事録を配布して情報共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中々お会いする機会はありませんが、運営推進会議以外には電話やケアカフェで連絡を取り合い協力関係を築く様に心掛けています。	法人は町の高齢者福祉政策事業で中核となっており、町担当者とは認知症ケアカフェや、グループホームでの認知症講座で指導を得たりして協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修や講習に参加して、資料は常に目が通せる所に綴り、日々の業務や会議でも話し合い身体拘束がないケアに取り組んでいます。	身体拘束については、高齢者虐待防止と共に毎年研修受講しており、弊害や禁止事項について正しく理解している。また、不適切な言葉や行動抑制の言動については日常から注意を払い、身体拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修や講習に参加して常に入居者様の身体・精神的变化に気を配り、何か変化があった場合は職員全員で話し合い、原因究明に努め虐待ゼロを目指しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習などに出来るだけ参加して知識を深め、必要な時はいつでも活用できる様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約書・重要事項説明書を十分に説明を行い理解・納得をして頂き、一部ずつお渡ししています。又、退去時にも不安を取り除く様に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の話には傾聴するように心掛けています。ご家族には面会などの際に職員がお話する様に努め、都合がつく時には運営推進会議にも出席して頂く。ご意見・ご要望があった場合は運営に反映出来る様に努めています。	家族の面会時には様子を報告すると共に、毎月発行の事業所便りに担当者の手紙を添えて報告している。昨年度より家族満足度調査を実施し要望や希望の把握に努め、サービス向上に反映する様努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映出来る様に努めています。又、普段より意見交換のしやすい職場作りを心掛けています。	管理者は月一度の会議時や日常業務時に職員の意見や提案を把握する様に努めると共に、年度初めに目標管理シートを職員の意見を取り入れて作成し、方向性を同じくした介護の実践に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力・実績等を把握する様に心掛け、負担が掛からないような勤務体制作りを工夫し常に向上心を持って働けるような環境・条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の調整を行い、グループホーム勉強会・施設内研修・施設外研修等に積極的に参加出来る様に努めています。参加後には報告書を提出し、会議等で意見交換をして職員の知識・意識の向上に繋げるように心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設内グループホーム交換研修を今年度も実施し、グループホーム勉強会のグループワークなどでグループホーム内交流を行いました。又、月に一度めむろカフェに参加し町内の他事業所との交流を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の生活の場でアセスメントする様に努めています。ご本人からの訴えを見逃さず事なく、お話を聴き不安・要望をしっかり受け止め安心して生活して頂ける様に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時面接や契約時にご家族の不安や要望をお聞きしご協力の中、支援を行う様に努めています。又、入居後も面会時や電話などで情報交換をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握する為、ご本人とご家族に積極的に対話する様に努め、他サービス利用の必要がある場合は関係機関より情報を収集し、速やかに検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその人に出来る作業やお手伝いを一緒にする事でコミュニケーションを図り、より密接な関係を築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境作りに心掛け、面会時には積極的に会話しています。その中でご家族の思いを把握し共に入居者様を支える事が出来る関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身近な方が何時でも気軽に訪問しやすい環境作りに心掛けています。又、入居者様からの希望がある場合はご家族の協力を得たりして出来る限り外出の機会を作る様に努めています。	以前住んでいた近所の知人の訪問や、友人の訪問がある。ドライブで懐かしい地域を訪ねたりと、利用者のこれまでの関わりを大切にされた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様居間に集まる事が多く、楽しくお話ししたりレクリエーション等で交流を図っています。不都合が生じた場合は職員が間に入り支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先、新施設等へ訪問する様に心掛け、出来る限り相談や支援をさせて頂く様に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の希望や意向を把握する様に努め、安全で安心した生活を送れる様に心掛けています。	管理者、職員は日常の会話や様子から希望や要望の把握に努めている。毎日、10時と午後3時にはお茶の時間を設け、利用者と職員と一緒に過ごす時間とし、会話を楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話を伺い必要時には関係機関から情報提供して頂き、支援に活かせる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて、自身で出来る事は積極的に行って頂き、変化があれば生活記録や連絡ノートにて職員全体に周知、把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族のご要望を基にカンファレンスにて各担当者、関係者で意見交換を行い、都度モニタリングも行い、現状に即した介護計画を作成しています。	利用者家族の希望や要望の把握に努め、担当者によるモニタリング、毎月のカンファレンスを参考に、状況に即した介護計画を作成している。最新の介護計画をファイルにまとめ職員間で把握し、生活記録に介護計画の実施が記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、生活記録に日々の状況を記録し、職員間は連絡ノートを用いて常に新しい情報を共有出来る様に努め、ケアの実践や介護計画の見直しに約立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じたご本人、ご家族のニーズに対応できるように、必要時には本体の老健の関係者へ相談を行い、意見を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、入居者が安全で安心して豊かな生活を楽しめる様に支援させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホーム主治医に往診して頂き、継続的な医療を提供しています。専門医受診の場合は主治医に紹介状を書いて頂き対応しています。	協力医療機関の内科医師による往診が2週間に一度行われており、24時間オンコール体制が取られている。他科への通院は家族対応となっている。法人看護師の訪問が毎週あり、健康管理や相談等適切な医療が受けられる体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム担当看護師に気になる点、変化があった場合には直ぐに相談して入居者様の健康管理に適切な対応が出来る様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはその方の日常生活、注意する点等を記入した資料をお渡ししています。入院中もご家族、病院関係者と連絡を密に取り退院後も安心した生活が出来る様に支援しています。又、町のケアカフェでの集まりでは積極的に情報交換を行う様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における指針を説明し、ご本人やご家族の希望をお伺いし、必要時には主治医、ご家族、関係者で早い段階から話し合いをし方向性を共有する様に努めています。	入居時の重要事項説明書に掲載されている「重度化した場合における(看取り)指針」を説明し、同意書を交わしている。入居時には特別養護老人ホームの申し込みも進めているが、状況により、利用者、家族の希望に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等に積極的に参加をするように心掛け又、日々自己学習にて実践力を身につけ急変や事故対応に早急に対処出来るよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様参加の避難訓練を年2回は実施しています。町内会の方にも参加をして頂き協力体制を築く努力をしています。又、今後実践を想定した内容の濃い訓練も行いたいと思います。	年2回の火災避難訓練を近隣の法人グループホームと合同で、町内会長の参加を得て日中想定で実施している。今回は救助袋(オリロー)を職員が体験している。他の災害については早期に検討する事となっている。	年2回の避難訓練の内1回は夜間想定で実施する事が望まれる。更に地域住民への具体的な協力依頼や連絡体制の構築、火災以外の災害対策等、更なる構築を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様1人ひとりの人格を尊重し思いやりのある対応を心掛けています。記録は鍵のかかるロッカーで保管を行っている。	管理者、職員は利用者を人生の先輩と尊重し、日々の何気ない行動や言葉使いにも注意を払い尊敬の念を持って接する様に心掛けている。記録類も適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現をされない方もいらっしゃいますがご本人の思いをくみ取る努力をし、出来る限り自己決定をして頂けるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先する事なく、一人ひとりの表情や様子を観察しながら、その方のペースを大切に希望に添った支援をするように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用しその方の希望される身だしなみが出来る様支援しています。毎日着る服と一緒に選んだり、時には一緒に衣類を購入するために出掛ける支援も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせ食事準備、片付け等を一緒に行っている。献立も入居者様の希望を伺い作成する様に心掛けています。	一週間ごとに職員が交替でバランスや利用者の好みを取り入れた献立を作成している。準備や後片づけ等、利用者に合わせて一緒に行っている。本部栄養士による研修を行い、カロリー計算方法や、病状に配慮した献立作成等を学んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量、栄養バランスが確保出来るよう支援しています。年2回は本体老健の栄養士にメニューを見て頂いています。水分摂取量は一覧表に記入し職員全員が把握出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援しており、その方の力に応じ職員が支援を行っています。又、必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄を一覧表に記入しパターンを把握できるようにして、間隔や本人の状態、意思表示により声掛け誘導を行い、自立した排泄が出来るよう支援しています。	利用者全員の排泄記録を作成し、タイミングを把握して、意思を尊重しさり気ない誘導で、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便チェックを行い、予防として野菜中心の献立作り、水分量にも気を配り、乳製品も摂って頂き、ラジオ体操、フロアの歩行運動等の適度な運動もして頂くよう支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回、ご本人の意向、体調、希望等を考慮し気持ち良く入浴をして頂けるよう支援しています。	週2回を目途に入浴支援を行っている。年に一度は本部老人保健施設の温泉に出掛けたり、入浴剤を使用したりと利用者の好みに合わせ、入浴が楽しめる様に取り組んでいる。入浴時には身体状況を確認し、何かあれば記録し、情報を共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣に合わせて休息を取って頂いていますが、日中適度な運動やレクリエーション、作業に参加して頂き、夜間良眠出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬について理解、把握をするように努めています。変更があった場合は直ぐに連絡ノートにて周知し症状の変化については常に確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節、天候が良ければ散歩や行事を企画し外出をして頂いています。又、日々その方の好む作業やレクリエーションを提供し役割のある生活を送って頂けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によるが散歩をしたり、花見や紅葉狩り、地域のイベント、外食へも出掛けています。ご本人の希望にて担当職員と個別外出も行っていきます。ご家族とも気軽に外出して頂いています。	花見や紅葉狩り、動物園等季節に合わせた外出や近隣を散歩したりと、利用者の体調や、天候に配慮しながら多くの外出支援を行っている。年に一度は利用者の希望を聞いて個別外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いています。購入したい物がある場合は職員が代行したり、一緒に買い物へ出掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会は中々ありませんが、ご本人の希望にてキーパーソン様に電話を掛けたり、ご家族や知人の方から電話が掛かってきたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光の調整をしたり、温湿度計を設置し快適に過ごせるよう管理し、家庭的で落ち着ける空間作りに努めています。又、入居者様と毎月創作物を作成し展示したり、廊下には外出、行事ごとの写真を掲示し入居者様やご家族に楽しんで頂いています。	回廊式になっている事業所内は利用者の運動にも利用されている。天井に設置された温熱版の暖房で事業所内は温かく、光や温湿度も快適になる様に調節されている。利用者の制作した作品や写真が飾られ、楽しく快適な居住空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様居間で過ごされる事が多く、自然と居場所も決まっている様子。皆様でお話をしたり居室で過ごされたりと個々にご自分のペースで過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物をお持ち頂く様にお話しています。入居者様1人ひとりが使用しやすい様、それぞれの物の配置も違いご本人、ご家族と相談をしながら居心地良く過ごせる様に工夫をしています。	居室にはクローゼット、洗面台が設置されている。利用者は、使い慣れた家具や好みの物を飾り、安心して居心地よく過ごせる様になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所が分かりやすい様に札を付け目につきやすい高さや位置にも工夫しています。車椅子の方にも手すりを活用し自立支援を行っています。		